

令和7年度
脱炭素
宣言
トピックス

染色整理加工の技術を通じてメイドインジャパンのすばらしさを提案

株式会社 艶金

令和6年度温室効果ガス排出量の削減率/令和3年度比:29.4%



エネルギー転換とアップサイクルで挑む。
伝統産業・繊維染色の脱炭素イノベーション

地産地消のJ-クレジットで地域経済の循環と共感を生む

2019年に株式会社艶金は創業130周年を迎え、同時に脱炭素経営を宣言しました。J-クレジットを導入した背景には、地域経済への貢献という明確な目的があります。岐阜県内の金融機関の仲介により、県内の森林保全事業に由来するJ-クレジットを選択、資金が地域内で循環する仕組みに賛同しました。導入による効果は、二酸化炭素の排出量削減という直接的な実利に留まらず、購入企業間の交流を通じた情報共有や、サステナビリティを評価する顧客層からの共感獲得など、目に見えない価値も確認されています。地域に根ざしたクレジットの選択は、企業の姿勢を外部へ示す指標となると同時に、他企業にとっても導入ハードルの低い、現実的な脱炭素手法のひとつといえることから、自社の規模に見合った範囲から参画する重要性を提唱しています。

初期投資ゼロのPPA方式で自家消費型太陽光発電を導入

エネルギー消費の多い染色業において、急務であった再生可能エネルギーへの転換をスピード感をもって取り組み、カーポート型パネルの設置と「PPA方式」の採用で解決。企画から1年足らずで自家消費型太陽光発電を実現しました。初期投資ゼロで導入し、既存の電気代と同等のコストで運用を開始。これにより、従業員向けの屋根付き駐車場という福利厚生に加え、社内の電力コスト意識の向上という副次的効果も獲得、さらに、この設備は顧客向けの有力な営業ツールにもなっています。サステナビリティが問われる昨今、カーポートを背景としたブランド動画の撮影が行われるなど、環境への姿勢が直接的なビジネスチャンスに繋がっています。



廃棄物を価値に変えるストーリー戦略



ファッション産業の大きな課題である「大量廃棄」に対しても独自のアップサイクルで挑んでいます。ひとつは、廃棄布地を地元の服飾学生へ提供する活動。若く瑞々しい感性で新たな洋服へと昇華させるこの試みは、次世代と共に社会を変える教育的価値も担っています。また、食品残渣を活用した「のこり染」にも注力。小豆や栗の皮など、本来捨てられるものから色素を抽出しアパレル等に製品化、「reticot-リトリコ-」と名づけブランド展開しています。廃棄物は定義次第で「価値の源泉」に転換し得ると捉えています。環境負荷が高いとされる染色業界において、自らが脱炭素化を牽引する姿勢を示すことで、業界全体の変革と地域社会への貢献を両立させる方針です。

Tsuyakin

〈所在地〉岐阜県大垣市十六町字高畑1050
〈電話〉0584-92-1821
〈HP〉<https://www.tsuyakin.co.jp>

